

ハノイ医科大学との定期オンラインワークショップを開始！
(2021年4月14日)

本件 JICA-SATREPS プロジェクトでは、HIV に対する抗レトロウイルス療法 (ART) の質向上とモニタリング体制確立を目標としています。それに加え、HIV 感染リスクの高い非感染者に対する曝露前予防 (Pre-Exposure Prophylaxis、通称「PrEP」) に関する研究も大きな柱の一つです。PrEP とは、事前に抗レトロウイルス薬 (ARV) を飲むことで HIV 感染を防ぐ方法です。PrEP がきちんと予防効果を果たしているか、薬剤耐性ウイルスによる失敗例は無いのか、飲んだ薬の血中濃度はしっかり保たれているか、などの研究が進められています。これらを通じて、失敗のない PrEP 普及を目指すのが目的です。この PrEP に関する研究活動では、現在ベトナムで PrEP 普及にとりくむハノイ医科大学 (HMU) と HMU が運営するクリニック (Sexual Health Promotion clinic、通称 SHP) と協力をしています。

引き続き専門家の国際往来が難しい中、今般 HMU とも定期的なオンラインワークショップを実施し、日本とベトナムで実施される PrEP や関連の性感染症への対応の在り方など、異なるテーマでの議論を深めようということになりました。その第 1 回として、「Continuing PrEP services in the COVID-19 pandemic」をテーマに、新型コロナ感染症が猛威を振るう中での日越双方における PrEP の在り方について、ハノイ医科大学-NGCM 定例オンラインワークショップを実施しました。



日本側からはプロジェクトリーダーの岡先生 (国立国際医療研究センター) 始め多くの先生に参加頂き、塩尻先生には日本での「遠隔 PrEP」に関して発表頂きました。



ハノイ医科大学からの参加メンバー。ベトナム側からも SHP クリニックでの取り組みについて発表して頂き、参加者は日本側の経験に熱心に耳を傾けていました。

ベトナム側からは、ベトナムにおける新型コロナ感染症の推移のあらまし、コロナ対策期における SHP の PrEP の取り組み、SHP での新型コロナ感染予防対策やその中での課題、について報告されました。

日本側からは、オンサイトの診療と組み合わせてインターネットを活用した遠隔 PrEP (Tele PrEP) の取り組みが報告されました。Tele PrEP は高い継続率と、情報が限られがちな地方での有用性が特徴です。ディスカッションでは、Tele PrEP で用いられている郵送検査の手法についてベトナム側から活発に質問が出て、議論が盛り上がりました。



互いの発表を受けて、コロナ禍での課題や検査手法等について活発な議論が交わされました。



ベトナム側からの熱意は、画面を通じ、オンラインでも日本側に届きました。

会議後には、早速次回のテーマ候補として今回議論で話題となった性感染症の検査方法が挙げられるなど、今後の定期化に向けて順調な滑り出しとなりました。プロジェクトでは、今後もオンラインを活かした活動で、引き続き両国間の医師、研究者の皆さんの議論を後押ししていきたいと思えます。